

風土を見つめ、海辺の町の物語を編集する一地域おこし協力隊を募集！



茨城県の海辺の町「大洗」は、かつて都会の人々が海浜地で心身を癒すために訪れる保養地でした。

やがて時代とともに観光は全国的に大衆化が進み、大洗も港湾開発や交通アクセスの向上とともに観光客数を伸ばし、観光地の姿は大きな変化を遂げてきました。その一方で町の人口は静かに減り続けています。

「観光客だけではなく、住民も魅力を感じる大洗の観光資源とは、何でしょうね」

そう問いかけるのは、大洗観光協会副会長であり、明治時代に創業した保養宿「金波楼」を前身とした宿「里海邸」の代表を務める石井盛志さん。

今回は、そんな石井さんの思いを汲みながら、大洗観光協会の仲間とともに、この地の魅力を見つめ伝えていく、地域おこし協力隊のメンバーを募集します。



(石井盛志さん)

自然の導きで人間力を取り戻す「保養のまち」を伝えなおすために、地域資源を掬い上げる

「この町に来てワクワクしたことは親水空間があふれる水のまちであることです。日々を忙しなく過ごす都会の人や地域住民が集い、自然の導きで本来の人間力を取り戻す。

大洗らしい地域おこしとは、保養に資する親水空間の魅力を整理し、シビックプライドの観点からみた地域遺産として、鮮明にさせてゆくことだと思っております。」

そうした願いとともに、私たちが現在取り組もうとしているのが、大洗のユニークな自然環境を地域資源として整理することです。

大洗海岸の岩礁の形成時代である新生代古第三紀まで遡りながら、地学・地理学・考古学といった視点から、汽水域である自然環境・生態系・地域文化など、有史以来これまでに大洗に質的な活力を与えてきた地域資源を掬い上げたいと思っています。

「海辺で夜風に吹かれて潮騒に安らぎを感じたり、荒波に心が洗われて自分本来の力を取り戻したり。保養地としての大洗の魅力の根底には単に美しいだけではない、豊かな生命が溢れる海辺や、清浄性の象徴として岩礁に立つ“神磯の鳥居”などの存在があります。

自然環境と暮らしの歴史から育まれた風土や文化から、大洗の本質的な魅力を掘り起こし、そこに観光客や住民が分かち合える価値を見出し、海のまちを豊かに感じていただける大洗の新たな保養地ストーリーを紡いでいきたいのです。」



大洗海岸の生態観察に参加する住民（2024 石井盛志 撮影）

大洗の価値を発見し、伝えていってくださる方に出会えることを、心から楽しみにしています。魚も空気もおいしく、海風がふーっと吹く心地よい海の郷で、あなたを待っています。

大洗観光協会長 大里明さんからのメッセージ

「大洗は暮らしやすい町です。みな温かく迎えてくれると思いますので、ぜひ新しい感性を大洗に持ち込んでいただきたいです。」



(大洗観光協会会長。割烹旅館魚屋本店代表 / 大里 明さん)

—
【応募要項】 大洗観光協会 地域おこし協力隊

▼主な仕事内容

- ・大洗町の本質的魅力を伝えるためのコンテンツ制作（記事・写真・動画・体験など）
- ・大洗町ならではの旅行商品の造成、集客のための広報PR
- ・大洗町の魅力の掘り起こし（地理、地質、風土、文化、生活など地域資源のリサーチと編集）

▼求める人物像

- ・大洗町への関心を深め、意欲的に挑戦できる方
- ・旅行・観光産業の活性化に情熱を持ち、主体的に行動できる方
- ・大洗町にとって本当に必要なコンテンツかどうかを考え、自ら判断し実行できる方
- ・地域の事業者や住民と積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を築ける方
- ・クリエイティブで、柔軟な発想力を持つ方
- ・チームと協力しながら目標達成に向けて取り組める方

▼雇用形態

「委託型地域おこし協力隊員」として委嘱します。

▼募集人数予定

1名

▼勤務地

茨城県東茨城郡大洗町（町外での活動もあり）

▼勤務形態

- ・週5回（一日8時間）の勤務
- ・うち週3回以上は大洗町観光情報センター「うみまちテラス」に出勤
（現地での勤務日数については応相談可能。一部業務はリモートワークも可能。）

▼応募

詳細は大洗町役場HP内の“地域おこし協力隊”募集専用ページをご確認ください